熊本地域医療センターだより

当院ＨＰはこちらから

院長　杉田裕樹　　令和４年(2022年)　６月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311　FAX 096-362-0222

〒860-0811　熊本市中央区本荘5丁目16番10号　https://www.krmc2.org

2022 7月号　通算206号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。
紹介してよかった。
働いてよかった。
そんな病院をめざします。

contents

わかりやすい 診療部紹介　～呼吸器内科～… P1
わかりやすい 部門紹介 ～あらゆるニーズに即応できる外来を目指して～… P2
昇任挨拶… P3
治験における被験者(患者さん)の意思決定について… P4

わかりやすい診療部紹介

～呼吸器内科～

呼吸器内科部長　藤井（ふじい）　慎嗣（しんじ）

平素より患者様のご紹介ありがとうございます。

2003年１月に当院に赴任し、今年の春に定年となりました。FA 宣言をしましたが他からは声が掛からず残留です。

さて、当院の呼吸器内科ですが、赴任時には常勤医２人でした。現在の４人体制になったのが2017年です。それに伴い入院患者数は増加し、昨年は大幅に増加し10年前と比べ倍増しました。しかし、この３年はCOVID-19によるところが大きく、受診控えや診療制限、COVID-19患者の受け入れによる変化です。昨年度は、特にCOVID-19患者が多く、入院患者数の29％を占めました。COVID-19の入院は時間外になることが多く、また施設入所者に多く発生したため、かなり負担を強いられました。

当科の特徴はと言うと、気管支鏡を用いた呼吸器インターベンションが挙げられます。

悪性疾患によって、気管や主気管支などの中枢気道を狭窄するような病変は、著明な呼吸困難を引き起こします。これに対し気管支鏡を用いて治療します。気道内腔に増生した腫瘍病変は、マイクロ波による加熱や高周波スネアでの離断で病変を取り除き気道を確保します。この治療により呼吸困難は劇的に改善します。リンパ節や腫瘍により気管・気管支外からの圧排で狭窄している場合はステントを留置します。また、気管食道瘻などの瘻孔を塞ぐためにステントを留置する事もあります。悪性では、肺癌、食道癌、甲状腺癌、大腸癌、腎癌などが多く、外科などの他科から紹介も多いです。治療によって症状緩和となり、次の治療に繋がります。

良性疾患に対するインターベンションもあります。難治性気胸に対するシリコン栓子（EWS）による気管支塞栓は、気管支を詰めてエアリークを止める治療です。残念ながら側副換気のため当該区域気管支を遮断しても回り込んでエアリークが続きうまくいかない事も多いのが難点です。

また、重症気管支喘息に対する気管支サーモプラスティ（気管支熱形成術）という治療も行っています。当院は九州で２番目に始めました。アレルギー科を兼任する津村先生が中心になって行っています。気管支鏡を用い専用の電極付きカテーテルで気管支壁に65℃の熱を10秒間与え、気管支平滑筋の筋量を減らし、喘息発作が起きる頻度を減らすという治療法です。１回計１時間ほどの治療を一泊入院で行い、３回にわけて３週間隔で行います。

新たな治療として肺気腫に対する一方向弁を用いた気管支鏡的肺容量減量術が近いうちに日本でも認められる見込みです。これは肺の過膨張を伴う重症肺気腫患者に対する治療で、一方向弁の気管支バルブを留置し、治療対象の肺葉の容量減少を得る事で残気量を減らして呼吸機能を改善させるものです。時期が来ればこの治療についても導入を検討していきたいと思います。

もちろん肺癌診療や一般呼吸器疾患にも力を入れています。これからもよろしくお願い致します。

わかりやすい部門紹介

～あらゆるニーズに即応できる外来を目指して～

外来師長　橘（たちばな）　恭子（きょうこ）

当院外来は、紹介型外来、市の委託事業である休日夜間急患センター、外来化学療法など、多様な役割を持ち、所属する看護師にはポリバレント性が求められます。みなさんは、この〝ポリバレント〟という言葉をご存じでしょうか。

厚生労働省委託事業である〝看護業務の効率化先進事例アワード2019〟において、当院は最優秀賞を頂きました。そこで紹介された当院の取り組みの一つが「ポリバレントナース育成」です。ポリバレントとは、複数のポジションを熟すことを意味します。外来部門で例えると、検査室看護師が不在の休日夜間帯において、緊急検査対応が求められた時でも動じません。検査スキルを有する外来スタッフが対応できます。つまり、外来と検査のスキルを有するナースは、まさにポリバレントナースなのです。また、働き方改革において、残業削減への取り組みが推進される今、病棟看護のスキルを有する外来ナースが応援体制の主役になります。このように、外来スタッフはポリバレントナースを目指し、あらゆるニーズに即応し頼られる部署になることを目標にしています。

ここからは、今年度の外来の取り組みについて、病院理念と照らし合わせながらお伝えします。まず、患者さんを顧客とした〝かかってよかった戦略〟です。

通常外来では、ロビーで待つ患者さんへのサービス向上を目的として、ラウンドナースを配置しています。ロビーを巡回しながら、患者さんや同行されるご家族の困りごとをキャッチし、あらゆるニーズに先手を打てるよう活動しています。また、がん診療拠点病院として、診断から看取りまでのプロセスに一貫性を重視し、在宅療養支援と患者さんをつなぐ病棟との一元化、外来化学療法の質向上に努めています。PFM：Patient Flow Management の充実を図るために、入院時支援を強化し、短い入院期間中でも満足に繋がる患者支援に取り組んでいます。また、当院は24時間365日救急を受け入れています。トリアージスキルを持った看護師が、患者の変化に気づき迅速な救急対応を行っています。コロナを入れない拡げない思いで、コロナスクリーニングの強化も行っています。時間外であっても、緊急検査対応が可能であり、正確な診断ができる点は当院の強みです。

次に、紹介してくださる先生方の〝紹介してよかった〟に向けた取り組みです。

看護師電話相談は、開設から４年目を迎えました。紹介する診療科に迷われるケースのみならず、今ではコロナ関連やフレイル患者さんの紹介など、相談内容は多岐に渡ります。少しでも、紹介してよかったと思っていただけるよう、ご連絡頂いた先生方や、紹介して頂いた患者さんの満足に添いたいと願う日々です。予約なしで紹介状を持参して来院された方へは、まず看護師による問診を行います。受診の緊急度を見極め、緊急度に応じた診察の優先度を見極めています。

そして働く職員を顧客とした〝働いてよかった〟の取り組みです。

コロナ禍も２年を経過し、働いてくれるスタッフを一層大切にする取り組みを行っています。単に休息が取れるだけでは、真の働いてよかったにはなりません。on/off メリハリのある労務管理や、スタッフ個々が成長することを目的とした目標管理。そして、それを組織が評価してくれる人事考課の導入により、スタッフのモチベーション管理に努めています。それらを反映した勤務表は、スタッフたちの永遠のベストセラーです。今年度は、コロナ禍に活躍してくれた外来スタッフがワクワクする勤務表づくりに、師長は奮闘しています。

外来は病院の顔として、あらゆるニーズに即応し、顧客満足度をあげることがモットーです。そのためには、やはりポリバレントナースを全員が目指し、勤務時間内に一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮すること。これに尽きると考えています。今後も、多くの患者さんが訪れ、そしてかかってよかったと思われる外来を目指していきます。

熊本地域医療センター
■医師へ直接紹介される方はこちら
☎096-363-3311（代表）
■何科に紹介するか迷っている場合はこちら
※ベテラン看護師が対応いたします！
（平日9:00~17:00）☎096-372-0600
■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら（連携室）
☎096-366-1323

編集後記

H　藤井慎嗣先生は、「FA 宣言して残留」を選ばれたということですが、メジャーリーグの大谷翔平選手も来年オフで FA となるそうです。FA 選手の去就がどうなるかは、いつも気になるところですね。

K　本誌の前編集担当の S さんが、３月末に入籍し、この度、寿退社することとなりました。幸せになります‼と涙を流しながらも、ステキな伴侶とのこれからの人生に向けての美しい満面の笑みで輝いていました。お幸せに！

H　梅雨といえば、雨が多い、蒸し暑い、洗濯物が乾かない、食中毒が増えるなどあまり過ごしやすい季節ではありませんね。ちなみに、「湿気」は本誌の印刷用紙と相性が悪く、印刷作業にも悪影響を及ぼします。紙詰まりが多発しないことを祈るばかりです。

昇任挨拶

事務長
牛島（うしじま）　敬司（けいし）

平素より医師会員の先生方をはじめ、関係者の皆さまには大変お世話になっております。
このたび、前事務長竹原恵慈の後任として事務長職を拝命いたしました牛島敬司と申します。どうぞよろしくお願いいたします。日頃より各医療機関の先生方には多大なご支援、ご協力を賜り、この場をお借りして御礼申し上げます。私のような若輩者がこのような大役を仰せつかることとなり身も引き締まる思いです。まずは皆さまにご迷惑をお掛けしないよう日々精進して参ります。
略歴を申しあげますと昭和62年に福岡大学を卒業、某食品メーカーの百貨店担当として東京で２年間営業職に就いておりました。その後ご縁があり、平成元年４月に熊本市医師会に入職、熊本地域医療センターへ配属となり、医事課、地域医療連携室、総務課を経て現在に至っております。これを機にお見知りおき頂ければ幸いです。
昨今の医療をとりまく環境は厳しさを増しておりますが、その中で医師会立の病院として何を求められているのか、何ができるのかを常に考え、地域医療に貢献する一助となりますよう与えられた職責を全うする所存です。何卒、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

総務課長補佐 兼
地域医療連携室
課長補佐
古城（こじょう）　大祐（だいすけ）

会員の先生方には日頃より多大なご支援ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。本年４月１日付けで総務課長補佐兼地域医療連携室課長補佐を拝命いたしました古城大祐と申します。これまでは長年にわたり経理業務に携わっておりましたが、この度、総務と連携室いう多岐にわたる業務を任されることとなり、牛島事務長の指導の下、慌ただしい毎日を送りながら責任の重さを痛感しております。
今年度の医師会病院の事業計画としましては、病院建て替え事業の推進や、くまもとメディカルネットワークの普及促進、休日夜間急患センターの体制維持など重要な事項を控えており、これまで以上に会員医療機関との連携強化が必要と考えております。
最初は不慣れゆえ皆様にご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、地域医療連携の充実、そして医師会病院のさらなる発展のために力を尽くしていきたいと考えておりますので、どうぞ今後ともご支援ご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

薬局長
深井（ふかい）　靖大（やすひろ）

平素は大変お世話になっております。横田崇薬局長の後任として薬剤係長を拝命しました深井靖大と申します。
熊本地域医療センターに就職し、病院薬剤師として長年実臨床で経験を積んでまいりました。
気づけば私を指導していただいた先輩、同期の薬剤師がいなくなってしまいましたが、頼もしい後輩薬剤師も多く育っています。
当院には信頼できる医師や優しい看護師、コメディカルや事務の方がおり、私自身今日まで仕事を続けることができました。
突然の辞令に責任の重さを感じておりますが、医薬品の適正使用を通して安心安全な医療を提供するように努め、患者さんに当院にかかって良かったと思える、そして、当院勤務の薬剤師にも働いてよかったと思える薬剤部を目指し、業務に取り組んでいきたいと思っております。
今後ともご指導ご助言いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2022年7月25日（月）19：00～20：00
形式／ハイブリット方式　オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM　　会場参加：2階多目的ルーム
申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com（※1）まで
メールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。（後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。）
※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。
人数制限によりご案内できない場合がございます。
※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

（※1）申し込みアドレス

①症例報告
『タクロリムスで寛解導入後ベドリズマブにて寛解維持が得られたステロイド抵抗性・チオプリン不耐性潰瘍性大腸炎の1例』
消化器内科　黒岩 朋裕 医師

②特別講義
『胆嚢結石症の診療アップデート』
CC53：腹痛
外科　黒田 大介 医師

治験における被験者（患者さん）の意思決定について

臨床研究部長　柏原　光介
臨床研究コーディネーター（CRC）伊瀬知一美

「治験」を行う目的と方法について

治験は**未来の患者さんや医療の発展のために新しいお薬を開発することが主な目的**です。
患者さん個人にとって必ずしも最適な治療とはならない可能性があるので、**「治験に参加する」**か、
それとも、**「治験に参加しない」**かは、患者さんが自由に決めることができます。
意思決定は患者さんの大切な権利です！

ここがポイント！

① 治験を行う**目的と方法**を理解する
② **いつまでに**決めなければならないか、確認する。
③ 治験に**参加する場合と参加しない場合の特徴**を比較する。
④ その中で、**患者さん自身にとって何が最も大切か**を考える。
⑤ 治験に**参加するか、しないかを決める。**

「決め方」も自由に決めることができます！

- 情報を十分得て**自分で**決めたい。
- 医療者や家族と情報を共有して**一緒**に決めたい。
- 医療者や家族など**誰かほかの人に**決めてもらいたい。

もし、患者さんとご家族の意見が食い違う場合には、医療者も一緒に話し合いをすることができます。遠慮なくご相談ください。
医療者は、患者さんの気持ちを尊重します。

臨床研究コーディネーター（略して CRC といいます）は、患者さんが治験に参加するか、参加しないか、決める際のお手伝いをします。
主治医からの説明や説明文書の内容で、分からないことや不安の思うことがあれば、CRC に遠慮なくご相談ください！